

# リスクアセスメント & 作業手順書

工事名称	2024年度 東海北陸自動車道 高山管内維持修繕業務			作成会社名	中日本ハイウェイ・メンテナンス名古屋㈱
工期	令和5年4月1日 ~ 令和6年3月31日			作成者	鈴木 悠平
作業名称	漏水対策工		作業手順書	作成年月日	令和4年5月17日
使用機械 使用設備 (具体的な名称・ クラスを記す)	連絡車、高所作業車			改正年月日	
使用工具、機器 材料等(具体的な 寸法を記す)	発電機、投光機、ハンマードリル、ハンマー、スパナ、養生テープ、防護カバー、ディスクグラインダー			現場責任者	
	コーキング材、コーキングガン、ウエス			協力会社	会社名 -
保護具	ヘルメット、自発光ベスト、安全帯、保護眼鏡、手袋(刃物作業時は耐切創用)			協力会社責任者	自筆サイン -
	自動車運転免許証 高所作業車運転教育 振動工具				作業順序
免許・資格等 (免)(技)(特)(準特) の区別を記す				1	現地確認
				2	準備作業
作業人員 (当作業に関わる役 割と人員を全て記 す)	作業責任者 1人、作業員 2人、保安員 1人			3	材料、道具運搬
	合計 4名			4	ケーブルの防護
作業手順 周知会 参加者 サイン (記録)	作業責任者(職長)		周知会実施日	5	樋の設置
	(役割を確認してこの作業に関わる全員が自筆サインする)			6	片付け

リスクの見積り	重大性			組み合わせ	リスクの評価	優先度又は実施担当者
	○:軽微 休業4日未満	△:重症 休業4日以上	×:極めて重大 死亡・障害を伴う			
可能	○:めったに発生しない (5年に1回程度)	○△	○×	○○	1:極めて小さい	関係者に対する周知
性	△:時々発生する (1年に1回程度)	△△	△×	○△、△○	2:かなり小さい	関係者に対する指示
	×:かなり発生する (6ヶ月に1回程度)	×△	××	○×、△△、×△	3:中程度	職長が確認
				△×、×△	4:かなり大きい	工事担当責任者が確認
				××	5:極めて大きい	十分に訓練をした対策が必要

リスクレベル 5=十分に訓練をした対策が必要 4=工事担当責任者が確認 3=職長が確認 2=関係者に対する指示 1=関係者に対する周知

作業項目	手順	急所	リスクの洗い出し	可能性	重大性	評価点	リスクレベル	ミス・ロス	リスクの除去・低減のための実施すべき事項の特定(防止対策)
(誰が)	主なステップ	作業のポイント	(予想されるミス・ロス)						
現地確認(全員)									
	作業箇所確認	危険ポイントの確認							
	周辺安全確認	構造物の確認							
準備作業(全員)									
	ミーティング	健康状態の確認 免許・資格等の確認							
	車両の点検・準備	車両の始業前点検、 工具の確認							
材料、道具の運搬、 高所作業車の設置 (責任者、作業員、保安員)	車両を安全な位置に停車する。	輪留め、ハンドル切り、サイドブレーキ。	車両停車後、車両が通行車線に飛び出て、一般車両と接触する。	△	×	△×	4		輪留め、ハンドル切り、サイドブレーキを確実に進行。
	車両の荷台から必要な材料、工具を下ろす	手元注意	重量物を一人で持ち腰を痛める。	×	△	×△	3		二人以上で荷下ろしする。
	高所作業車を施工箇所下に配置する。	周囲確認	施工時に何度も高所作業車を動かして施工効率を落とす。	△	○	△○	2		周囲を確認し、施工しやすい箇所に設置する。
ケーブルの防護 (責任者、作業員)	施工箇所付近のケーブルに保護カバーを設置する。	手元注意	作業時にケーブルを損傷させる。	△	×	△×	4		施工箇所を明るくし、事前にケーブル位置を確認する。
樋の設置 (責任者、作業員)	ハンマードリルを使用して既設コンクリートを削孔する	手元注意	ケーブルを損傷させる	△	×	△×	4		機械、道具等の使用する際は保護具を着用し、周辺に人がいないことを確認し作業する。
	樋を施工箇所の長さに合わせてカットする。	手元注意	カッター等で手を損傷する。	△	△	△△	3		切創手袋を着用し、作業する。
	隙間をコーキングする。	手元注意	コーキング材が垂れる。	△	○	△○	2		多めについた箇所はウエス等で軽くふき取る。
後片付け (責任者、作業員)	清掃	破片、工具等が残っている							